

なほ

5月号
vol. 171



おとなの 社会科

特集

第1講 地理 — 紀州街道

「シンクロ」
久宝寺緑地にて撮影

西成の地の利

西成の良い点を聞かれて思い浮かべる事柄の最大公約数は「交通至便」ではないだろうか。鉄道路線がたくさん通っていて、幹線道路も縦横に走り、地形の高低差も少ない。ミナミにも小一時間も歩けば着いてしまう。大阪の中心街からの絶妙な距離は昔からこの地の利点だった。紀州街道沿いもまたそうしたポテンシャルをもつ場所ではなからうか。

紀州街道とは、大阪市中央区の高麗橋を起点に、大阪湾の海岸線に並走して和歌山市の京橋（和歌山城の北を流れる市堀川に架かる橋）へと至る街道である。東横堀川に架かる高麗橋から西に向かって出発すると、ほとんどが堺筋と直交する。そこから堺筋と重なり、行先に向かって南進する。日本橋の賑やかな

おとなの社会科

第1講 地理——紀州街道

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてみた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

街道をがらがら往く

はじまりは浪速区の「戎神社前」という交差点。早速、出発するも街道の風情は微塵もない。少し困惑しながら歩いていると、家並みの向こうに、頭をもたげる怪物のような建物が現れた。現在建設中の「星野リゾート」(①)だ。今は異様にみえるこの巨大な建築物もやがて綺麗に化粧を施されて、大阪・新今宮の新しい玄関口になるのだろう。



街道に引き継がれている。では、堺筋の南伸はいつごろの話だろうか？ まあ、そういう疑問は脇に置いて、今回は一〇〇メートル西にずれた浪速区の交差点を起点とし、住吉区との区界である塚西までの道程を辿ることにした。

JR大阪環状線をくぐり抜けると、そこからは西成。「紀州街道」と聞いて思い浮かべるのが、こういうわけか、この交差点の景色(②)だ。並木の淡い緑とその見晴らしの奥に見える西成警察署などの街の稜線が、目抜き通りとしての風格を感じさせるのである。この感覚はあながち的外れでもなさそうだ。というのも、この街道の右手(西)に広がる地域はかつて「釜ヶ崎」という小字名で呼ばれていたのである。その後、釜ヶ崎は全国でも稀有な個性をもつ日雇い労働者の街に変貌していく。つまり、紀州街道はこの街の歴史の目抜き通りだった——ちょっと言い過ぎかなあ。

信号を渡ると、区の設置した里程標が高麗橋から約5kmの地点と教えてくれる。街道に因んだ西成の歴史を辿るにはよいきっかけだ。この日は花曇り、

気温も少々低めで、こうして街を歩くにはちょうどよい爽やかな気候だった。並木の柔らかい緑も気持ちいを和ませる。物々しい門構えの西成警察の横を過ぎると、すぐに三角公園だ。すれ違っておっちゃんたちの顔は、穏やかな春の気分を満喫しているように見えた。桜の満開のピークはきつとこの週末になるだろう。

三角公園を後にすると、それほど離れているわけでもないの



に、街の喧騒がすっかりなりをひそめ、下町の雰囲気。築年数を経た趣のある建物(③)がところどころにあるが、派手な配色の壁面(④)に目が止まった。西成出身のヒップホップアーティストSHINGO★西成がプロデュースした大阪市のプロジェクト「西成ウォールアートニッポン」の作品だ。セピア色のまを、自分たちで彩ろうというキャッチコピーどおりに、彩色のクセは強烈。が、落ち着きは



な住宅街”の面持ち。天下茶屋公園(⑥)は桜と若葉の緑が満開で、何組かの家族連れが花見を楽しんでいる。公園内には、本誌二二八号で取り上げた安倍寺塔心礎あべでらとうしんそが安置されていた。ほとんど天神森天満宮(⑦)が左手に現れる。里程標によると高麗橋から約7km。「紹鷗せうおう森天満宮」「天下茶屋天満宮」「子安天満宮」と多くの別称を持つこの神社も本誌一四五号で取り上げていた。千利休の師匠、武野紹鷗たけのしゅうおうがこの付近に居を構え茶の湯を究めたのは、有名な話だ。境内には樹齢六〇〇年を越える楠がいくつもある。もしかすると、この一帯は昔から地の勢いの盛んなスピリチュアルな場所なのでは…。

境内を散策して紀州街道に戻ってくると、道の向こうの住宅街にも大きな楠が一本、そびえ立っている(⑧)。その姿にスピリチュ



アルな(う)異様さを感じた。「天下茶屋史跡公園」という碑に見合わない、アスファルトで地面を固めただけの何の趣もない区画の奥に、その楠と蔵が残っている。どうやら、ここが「天下茶屋」という地名の由来らしい。案内には、紀州街道からこの楠と蔵を一角に収めた五〇〇〇㎡の大きな屋敷(⑨)があり、秀吉が茶の湯を楽しんだ、とある。ただ、現在の住居表示では、ここは「岸里東」。「天下茶屋」は松虫通の向こう、街灯が示す先の三連商

店会てんげかいのあたりなのだ。いよいよ最終盤、南海高野線の高架をくぐると、左手から阪堺線が合流してきて、住吉大社までは紀州街道の路面を電車が走っていく(⑩)。阪堺電軌の路面電車はノスタルジックな時代性を帯びている。その時代性は周囲の街並みにも及び、「懐かしさ」のフィルターをかける。住吉大社までの路程はきつと時代感が麻痺する行楽の愉楽に満たされるにちがいない。

道は繋ぐ
本誌はこれまでに西成のいろいろな場所を紹介してきた。紀州街道を歩いていると、そうした場所のいくつかが点となって現われてきた。紀州街道はそれらの点を繋ぐ線、西成という街の燃り糸である。その助けを借りて点を線にする想像力が発揮できれば、西成の物語を紡ぎ出すことができるはず。さて、どんな物語が生まれるだろう。

文責：若松司・福井龍磨



らったこの街のありようはどうだろう。今日も「セピア色」がこの街を支配している。

あつ、信号——たしかに、環状線の高架すぐの交差点を渡ってからここまで、信号は一つもなかった。西成の紀州街道は信号ごとに雰囲気を変えていく。この交差点(左に曲がると、堺筋の終点のロータリー跡がある)を渡ると道幅が狭くなり、車線は一方通行になる。"いわゆる下町"の光景を歩いていると、ふと「合」と付いた街灯が目についた。街灯のデザインに気をかけることなんてめったにないが、設置する側にとっては自分たちのアイデンティティを示す大切なモノ。短い区間に街灯の種類が三つ(⑤)もあって、それぞれ「天合商店会」「天栄会」「天三商店会」の銘が刻まれていた。

松虫通を越えると道路はふたたび広がり、あたりは「閑静



車気狂いピエ

みずからの無知を知らさ

去年マリエンバードで心中天

れ、社会への関心を強いられ、

の網島絞死刑アルファビル憂国真夜中のパーティー日本の悪

なによりもみずからに微塵の力もないことを知らされた”時たち”の連続であったからだ。

霊バルタザールどこへ行く祭りの準備無常肉弾僕の村は戦

70年代という時が変幻し、遥かな遠い現在のこの地に漂着してしまった今、

場だったかくも長き不在ウィークエンド竜馬暗殺戦艦ポチョム

ごく私的なその記憶の断片をかき集め、

キン戒厳令少年小間使の日記華氏451第七の封印ガキ帝国

私がいた70年代を確認してみたいと考えた。

ウンベルト・D 遠雷 1967~75年アート・シアター・ギルド 3

くらし応援室/楽塾:佐々木敏明

非日常としての映画

自由経済の伸長に加え、新興のTVメディアが映画産業の勢いを削いでいく。アート・シアターも既成概念への超克をコンセプトにしながら、徐々にエンターテインメントを強くしていき80年代の後半、ATG活動は映画の誇らしい残像を記して終焉する。

僕が実際に映画館で観たATG作品群は、60年代後半から70年代初めに集中し、とくに70年代半ば以降には興味を失い、後年はビデオなどを利用しての視聴だった。当時あの特別なATG映画が特別ではなくなっていく。ATGはなぜ消滅していったのか。

20世紀目前、映画の祖リミューエル兄弟の『列車の到着』を現視体験した人々は、言葉ではなく『映像』に驚愕したのだ。そしてサイレントが続く中、視覚が人々の頭脳を支配した。その視覚とは

時間空間を超え自らの経験体験でなく、見たこともない映像のみがスクリーンに立ち現われ、珍しい映像を共有できた。それは今様の仮想体験やCGみたくないものではなかったらどうか。

その後トーキーの普及は、登場人物に「言葉」を持たせた。観衆は映像や登場人物から主体的な言葉という知恵を授かり、主人公たちの知恵や行動を疑似体験した。トーキーは映像のみならず登場人物に立体的な造形や陰影を与え、いわば映像を神化させていく。そして人の生活基盤であるケ(日常)に対し、ハレ(非日常)の祝祭である舞台が映画であることを強調した。ハレが様々な欲望や思惟、行動をふくらませ、人々の希望を増幅させる神殿となっていく。

祝祭の墮落

53年のTV本放送以降、映画は

や狂熱の日々と受容させていく。もちろんATGのみならず、あらゆる文化的素地を持つ人々も、それぞれの武器を削がれていく時代でもあった。倦むべき日常性の打破を目指しながら、結果は、非日常がぶくぶく太っていく。弱い日常に変化し続けようとしていた。

反転するハレとケ

資本経済が文化、芸術の情報回路を取り込み、若者の非日常ハレを日常に変換させ融合させていく社会であった。それは自分たちが主人公であり輝かしい時代の担い手だとする錯覚な幻想を植え付けた。カウンター・カルチャー、つまり対抗する姿勢がいつの間にかサブ・カルチャーなどと呼ばれるようになり、ハレの翼下に配列させられていくのである。

僕たちはケである日常の本質に抗っていたつもりが、ある日サ

ブだと認定され、ハレの身分制度入りを許されたようなものであった。かくしてハレが日常化し、ケの日常を隠べいする。まん延するウィルスの常態化とも酷似し、生活の源を問うはずの人間の新たな模索のないままウィルスの増殖を許し、日常を無視する非日常が形成されていく。

ATGの存在は、既成や常識を疑い僕たちに纏わるあらゆる大きなものに対抗していく共感の文化であったが、70年代以降の圧倒的消費社会の到来と、普段は遠望の対象だったハレが日常となり、ケという日常の本質を見えなくさせていく。ATGの前衛性や攻撃性が不要となり、ATGの存在を不要にさせてしまった。(了)

Rolling70はひとまずここでシリーズを終了します。愛読をありがとうございます！

見聞きデザイン構成「ATG」/ hidanaki

[谷口円]「結末を先に知っておかないと物語を見られない」という話をたまに耳にするようになった近年。「映画を早送りで見るともそうだけど、物語の楽しみ方はどこに辿り着くんだろう。



[田岡秀朋]公共施設の民営化では仕様書づくり民間企業の声を反映させるマーケットサウンディングという手法がある。市民の声を聞くパブリックサウンディングなんてできないやろか。



[佐々木敏明]「なび」創刊15年と共にあり、そして私は今号で退場し若き後輩たちにペンを譲ります。ご愛読を感謝いたします。別れ霜慣れにし声を耳底に



[沖田一志]花粉シーズンが終了。今年はマスク効果なのか20年以上も続いていた花粉症が発症しなかった。「自然治癒した？」と母親に話したら即答で「老化ちゃう？」と言われた。なるほど。



些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのマジメ系コラム。

『人間百年時代と縁のあり方』

人生七十古来稀なり、古希になった

古希になってしまった、特別な感慨はない、中国の唐時代の詩人杜甫の詩の「節」人生七十古来稀なり、人生七十まで長生きすることはめったにないのだから、今のうちにせいぜい楽しんでおきなさい、と。昔は人間の寿命は50年、今や人生1000年時代。人生1000年時代のテーマは、教育↓仕事↓老後という単線型の人生ではなく、多様な人生の再設計をどう可能にしていけるか。国は「高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会を創る」(人生1000年時代構想会議・中間報告)と方向性を示している。

なぜ『縁』(関係性)が途切れてしまうのか

古希になって改めて思う。高齢期に限らず、孤立・孤独を生まない社会の基盤づくりこそ、全ての人が元気に活躍し、安心して暮らせる社会を築くために最も重要なことだと。



4月に21年度入園式を行いました☆ 2歳児 Jellyfishクラスと3歳児 Sea Turtleクラスに、新しいお友達がたくさんやってきました♪ GCC Kidsは、ますます賑やかになりそうです！ そんな予感で今年度も楽しみます☆

ある大規模団地で孤独死が昨年1年間で5件、発生した。そのうち4人は男性で、女性は1人と圧倒的に男性が多い。年齢は60代後半から70代前半のいずれもひとり暮らしの高齢者で、腐敗臭という近隣住民からの通報で発見されている。ただ、独居であっても、勤務先やヘルパーからの連絡があつて社会的には孤立していない場合は、死後発見の時間は短い。「発見までの期間は日頃のコミュニケーションの差が大きく、長くなればなるほど地域との接点がなく孤立している場合が多い」と専門家は指摘している。人は地縁、血縁、生活(地域)縁、仕事縁と何らかの縁で結ばれている。

なぜ、これら『縁』(関係性)が途切れてしまったのか。大阪府内で昨年1年間に誰にも看取られな

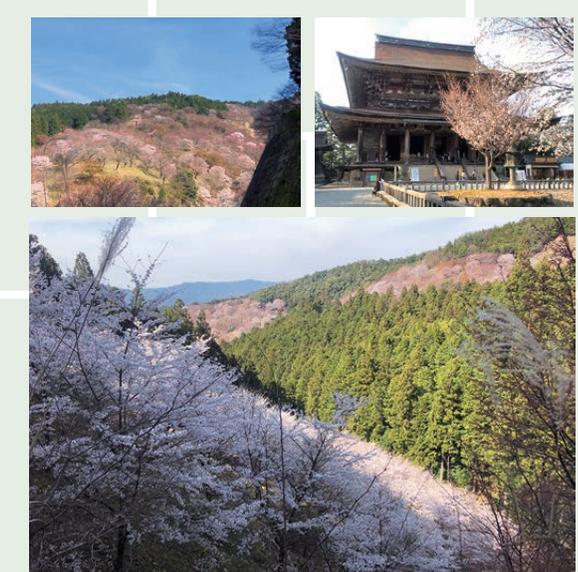
いまま屋内で死亡し、発見まで2日以上経った遺体が2996体、1か月以上は382体だと大阪府警検視調査課は報告している。年齢をみる



たぐの 3くふうたま



山の春



近所の公園で見る満開の桜に、ついつい足を止めて見惚れてしまう。コロナ我慢が続くなか、ふと学生時分に見た吉野の千本桜の光景を思い出してしまった。思い立ったが吉日。都会育ちで山桜を見たことのない自転車仲間と走り出していた。いつもの如く弾丸旅だが、久々に深呼吸のできた贅沢な一日だった。
(安田拓也)

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

と、3人に1人が70代と最も多く、60歳以上の高齢者がほぼ8割、性別では男性が7割と圧倒的に多くを占めている。持続的な『縁』(関係性・つながり)の形成が、孤独死防止の重要なキーワードである。

『縁』のあり方の再構築へ

古希になって今とこれからを考える。新型コロナウイルス感染症は終息の方向どころか、拡大へ。自粛要請や度重なる緊急事態宣言、身体的・精神的、さらに孤立・孤食・独居・離職・経済的困窮等の負の連鎖を起し、『縁』の分断を生み出している今。このことは、流行前からの様々な地域課題や社会課題をよりクリアに、より早く顕在化させたともいえる。postコロナ時代において、縁のあり方がどのように変わっていくべきか、変えていくべきか、また孤立・孤独を生まない社会の実現のために何をすべきかを意味している。人それぞれに活躍の場があり、元気に安心して暮らすことのできる社会に向けて、新たな価値を創造していくことが我々に求められている。

ハンプティ・T

9  [安田拓也] 自転車で桜の名所奈良県吉野へ。学生時代の自転車部恒例「新歓&合宿」思い出の地。約10年振りの「七曲りの坂」と宿坊前の「とんでも坂」を登って、まだまだ走れると実感！

 [福井龍磨] 自宅のすぐ側にある見通しのいい大通りには、週末になるとバイクの走り屋がどこからともなく現れ、轟音を撒き散らして走り去って行く。時刻は決まって土曜日の午前1時半。

 [西原夏美] 今月号から参加させていただくことになりました。しょうもないことしか呟くことしかできないと思いますがよろしくお願ひします。左のイラスト、素敵の方が描いてくれました！

 [西田吉志] 公営住宅の自治会役員の担い手不足は今後も増えるだろう。たしかに、会長や会計の業務は誰にでもできるものじゃない。「誰でもできる」自治会活動をつくるお手伝いが求められているのかな。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「照手白の葉っぱ」の巻

つよい風でたおれそうになったけどふんばった。つめたい雨にくじけそうになったけどがんばった。泣きたい夜がたくさんあったけどがまんした。そのたびにはげましてくれた仲間のこえが力になった。わたしはいま、新緑色の葉っぱで笑う。わたしにつられて花も笑う。いっしょに笑える毎日うれしい。

赤井まゆみ

照手白のこと

バラ科モモ属の耐寒性落葉高木。葉は横に広がらず細く上に伸びている。花言葉は「私はあなたのとりにこ」「気立てのよさ」。

い湯かげん

祝！ エスペランサ靴学院芦原橋移設

新聞報道のとおり、この4月、業界では著名なエスペランサ靴学院が浪速区のAダッシュワーク創造館内に開設され、授業を開始した。開設というよりは移設で、東京の浅草で半世紀も頑張っておられたものが、経営難で事業断念となるところを、学院卒業生の大山一哲さんの発案、Aダッシュの高見一夫館長の協力で、大阪移設が実現した。

製靴業は浪速や西成の同和地区とその周辺の地場産業で、ルーツは江戸時代から靴の原材料である皮革の一大集積地であった旧渡辺村という被差別部落である。当然、部落解放運動は同和対策法の力も借りて皮革業や製靴業の振興に努めた。大阪皮革産業会館(大國町)の建設も同和

対策法によるものだったが、この会館もすでない。地元選出の辻洋二、吉田信太郎、松岡徹各市議は皮革産業振興に熱心で、ボクもその市議らや西成区玉出にあった関西製靴株式会社の片岡常年社長など業界関係者らと一緒に、TQ(関税割当)制度問題で政府や国会議員への要請行動のために上京した。一九九〇年前後のことだった。

日本の製靴業は明治以降と歴史が浅く、どうしてもイタリアなど本場の後塵を拝しており、また、中国などには安価な製品の大量輸入で突き上げられていた。ガット・ウルグアイ・ラウンドでの靴の貿易自由化の圧力も高まっていた。そこで、自由化に對して、国内産業保護(ボク達からす

ると部落産業の振興という観点で、関税の維持と技術革新や人材確保などの産業振興政策、すなわちTQ制度を求めたのである。それは至極当然のことだった。

その後、西成のまちづくり運動の中から、靴職人育成のための西成製靴塾が設立されたのは一九九九年、靴職人の故井村義清さんなどが奔走された。この塾は、長橋小学校の空き教室から始まり、いまは鶴見橋商店街に居を構え、22年で約二〇〇人の卒業生を送り出してきた。塾への行政補助金は一切なく、無認可だがいわば社会的企業として持続してきた。そこに、近場へのエスペランサ靴学院の移設は朗報だ。一九九九年はエル・チャレンジの創設やNP0釜ヶ崎支援機構の設立の年でもある。この頃、ボク達は、行政補助金にも頼らない、営利企業でもない「新しい発想」に胸を膨らませていた。

エスペランサ靴学院は、靴づくりの技術だけでなく、経営学やマーケティング、SNSを利用したセルフプロデュースの方法なども学べるらしく時代の先端を走る。そこに、A

ここ最近、何回もコロナ禍について書いてうんざりだが、大阪のコロナ感染者数が毎日更新されるといってもいい状況になっている。私たちの「ゆ〜とあい」も4月12日からサークル活動等ほとんどの活動を自粛休業した。努力を惜しまずに、何とか感染拡大を防ぎたい。

そんな中、白血病から回復し、1年でオリンピック参加記録をクリアして見事に復活した水泳の池江選手の活躍はすごい。あの笑顔と涙の背後には想像を超える努力があっただろうし、彼女に寄り添う周りの人たちの努力や思いも大変だったろう。どれも賞賛に値するものだ。

社会がコロナと闘っているこんな時こそ、私たちが池江選手をお手本に、諦めることなくしっかりと前を向いてコロナに負けない生活のかたちを築いていきたい。

(寺本良弘)

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

ダッシュの就労支援やコミュニティビジネス支援のノウハウというバックアップが加われば、期待は膨らむ。西成製靴塾も小学校の空き教室から「小さく産まれた」。伝統あるエスペランサ靴学院もAダッシュワーク創造館の一室から「小さく始まる」。社会的企業って何かと問われれば、欲しい商品やサービスを「働きたい人」でつくるということ。当然、欲しい人が少ないと通常の市場では手に入らないから、何らかのしかけが必要だ。働きたくても事情があって働けない人にも何らかの仕掛けが必要となる。その仕掛けに苦心惨憺するものが社会的企業ということだ。小さく始めて、大きく育てて欲しいものだ。



[山村裕太]「坊や哲」という漫画を読みなおしました。今は無理やけど、久しぶりに麻雀したいなー。



[若松司] テレビの音楽番組の特集「2000-20 J-pop 30」で16位のキリンジ「エイリアンズ」、これだけ知らなかったので聴いてみた。すごく良い。1位は髭男dism「Pretender」だった。プロの耳はわからん。

地域の縁を心でつなぐ

心の時間

私の好きな言葉である「One for All, All for One」は「一人はみんなのため、みんなは一人のため、みんなは一つの目的のため」という意味を持っています。同じことを仏教では「自他一如」「因縁生起」といい、様々な原因や縁がお互いに関係しあっていることを説いています。

古来より「個人と国家」(一人

とみんな)は、関係しあって成り立つ間柄です。百田尚樹の小説「永遠の0」は、「生きたくても生きる事が許されなかったいのち」について書いていますが、「国家」のために「個人」にいのちの犠牲を強いる時代が二度とあつてはなりません。幸い、日本国憲法第13条は「個人」のために「国家」がある(個人の尊厳)と規定しています。ただし昨今のコロナ禍においては「個人」ばかりを優先して「国家」を無視するとより多くの不幸を招きかねず、「個人」が自らを律することも必要です。

様々な「縁」で人は出会います。今、ご縁があつて「あなた」と出会えたことも私の存在の意味に思えます。

松向寺 通法

ココロ

ココはドコ?
わたしはゆ〜とあ?
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開!

遠目にも目立つ大きな「米」の字。周りの建物の様子から、住宅街の一角だと推測できますね。ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで! 正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします(先着10名様限り)。回答期限は5月末日、ふるってご回答ください!

【先月号の答え】 浪速消防署の近くにある、北開2丁目の集合住宅でした! 玄関ドアがズラリと並ぶ様は圧巻です。



2017年5月撮影



ゆ〜とあ

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあ」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか? お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび5月号(vol.171)
発行日:2021年5月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、
西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、
山村裕太(あいうえお順)
イラスト:hidarimakii デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

